

るり色に変はる潮の目雁供養 (くるみ) 15点

◎雀…黒潮の流れが瑠璃色に見える頃、冬鳥たちが帰ってゆく。民話調の季語をさり気なく使った。

鶯やそのときしんとする光 (裕章) 8点

◎雀…あの絶妙な間合いがいつとき強く光を感じさせる。陽春の光だ。清々しい表現。

ひかりては消ゆる雨粒松の芯 (薑子) 7点

◎小和楽…松の芯に降り注ぐの雨の表現がとても新鮮です。

降りみ降らずみ鶯の谷渡り (としこ) 6点

◎めぐみ…とぎれとぎれに聴こえてくる美しい声、降りみ降らずみと雨にたとえたのですか素敵、私も耳をすませてしまう。

飛花落花初出勤のハイヒール (えりこ) 6点

◎くるみ…緊張感の中にも希望が感じられ、頭韻がリズムカルで心地好い。

賽の目の豆腐ひんやり初桜 (つかさ) 5点

◎きさ…初桜の頃のひんやりした感じがよく分かる。

ごとごとと卵の茹だるよなぐもり (りん) 8点

○雀…ごとごととがリアル。ゆで玉子むけばかがやく花曇 汀女 のパロディとも。

幾千の目に映る雲蝌蚪の紐 (しおのり子) 8点

◎草蛙…おたまじゃくしにも人にも、目に春の雲が映っていると、春の賛歌の句であるとおもいました。季語の使い方が新鮮です。

みな同じページ見てゐる目借時 (山口眞登美) 8点

◎節子…この句を詠むとこちらまで眠くなってきました

猫の耳つまむに似たり落椿 (智子) 8点

◎ヒロシ…猫の耳と、落椿のふんわりとした触感はぴったりと感じました。

共学になりたる母校牡丹の芽 (みやこ) 8点

◎ぱんだ…時代が変わっていくことを惜しむ気持ちと、後輩たちの未来への祝福を感じました。

蜥蜴出づいちにんまへの目も顔も (しずか) 2点

◎あきら…蜥蜴に愛情豊かに接して親しみ、春の生命力が豊かです。